

当院における中心静脈カテーテル抜去後の空気塞栓症の発生について

北里大学病院

病院長 岩村 正嗣

2019年5月、当院で入院中の患者さまが、中心静脈カテーテル抜去後に空気塞栓(血管の中に空気が入ってしまう状態)を発症し、その後死亡された事例が発生しました。

患者さまは、嚥下困難による低栄養を改善するために、中心静脈カテーテルから高カロリー輸液で治療しておりましたが、症状改善に伴い中心静脈カテーテルを抜去したところ、意識が消失し、重篤な状態となりました。精密検査にて確認したところ、空気塞栓を発症していることが判明したため、ただちに最善の治療を実施し、一時的に症状は回復しましたが、その後、肺泡出血を併発され、お亡くなりになりました。

本事例を受け、当院は、第三者による客観的な事例検証が必要と判断し、ご家族の同意を得た上で、外部委員を入れた調査を行いました。この調査において、「空気塞栓の発症は、中心静脈カテーテル抜去に伴う空気塞栓発症の危険性に対する認識不足が一因である。」との指摘があり、また、死因については、「空気塞栓症と死亡との因果関係は分からないが、空気塞栓症による身体への侵襲が、急激な容態変化やその後の病状に影響を与えた可能性も否定できない」との見解が示されました。

中心静脈カテーテル抜去に伴う空気塞栓発症の危険性に対する認識不足により空気塞栓を発症したことにつきまして、患者さま、並びにご家族の皆様にご心からお詫び申し上げます。今後は、質の高い医療を提供すべき特定機能病院として、再発防止の徹底、指導、教育を行い、病院を挙げて安全な医療提供体制の構築に努めて参ります。

○問い合わせ先

北里大学病院 医療の質・安全推進室

e-mail : shitsuan@kitasato-u.ac.jp